

三原市消防出初式に参加

1 月 11 日 (日) 本郷総合公園で三原市消防出初式が開催され、鷺浦分団から約 60 名が参加しました。

式典、新型救助工作車披露、消防団放水競技がおこなわれ、鷺浦分団は佐木班が放水競技に参加しました。優勝は逃しましたが、**第 2 位**になりました。寒いなか年末から新年早々練習に励まれた団員・関係者の皆さん本当にお疲れ様でした。

今年の鷺浦分団の表彰者は次のとおりでした
三原市長表彰

永年勤続優良消防団員

白須則和 岡本浩希

永年勤続優良消防団員功績章

平木豊彦

永年勤続 25 年以上

引地敏樹

永年勤続 20 年以上

御畑完治

永年勤続 15 年以上

岡本浩希 白須則和

永年勤続優良消防団功績章

西原 真 坂本明弘

精勤章

河本邦彦 大西武志 坂本明弘

優良消防団員

山本勝彦

勤続章

吉岡幸夫 平木 泉

岡田 瞳 社中展

華道家元池坊の「小島に春が」をテーマに花展を開催いたします、皆様会場へお越し下さいますよう、社中一同心よりお待ちしております。

会期：2 月 28 日 (土) 10:00~17:00

3 月 1 日 (日) 10:00~17:00

会場：鷺浦コミュニティーセンター

主催：岡田 瞳社中

後援：華道家元池坊三原支部

協賛：財団法人 池坊華道会



2 月町内行事予定

3 日 (火) 節分祭

11 日 (水) 向田八幡神社御弓神事

元気さぎしま協議会

体験講座

スパイスたっぷりインド料理教室

日時： 2 月 24 日(火) 9:30~13:00

講師： 藤井 晶子

受講料： 100 円+900 円 (材料費)

定員： 20 名 (先着順)

持参品： エプロン、三角巾

申込み期限： 2 月 20 日 (金)

申込みは鷺浦コミセンへ

電話： 87-5004

スパイスでいつもの食材をちょっとアレンジ

お大師さん八十八か所スタンプラリー開催

1 月 18 日 (日) お大師講の日に併せて、八十八か所スタンプラリーが 50 名もの参加を得て開催されました。23 か所にスタンプを設置し、台紙にスタンプを押して巡拝するものです。JR の広告に載せていただいていることもあり、山口県・岡山県・広島市内周辺からの参加者が全体の 60% と地元よりも多く、島の魅力に対する人気の高さが伺われます。鷺港を 10 時にスタートし、一番札所の石鎚権現教会から向田方面へ、昼食は向田公民館で暖かい接待をいただきました。その後、向田地区の巡拝コースを経て佐木地区まで楽しく巡りました。

参加者のみなさんからは、大変好評で、島の景色・環境も素晴らしく、住民の接待 (おもてなし) に感心しておられました。今回初めての企画でしたが、好天にも恵まれほぼ予定通り進みました。しかし船便、行程の時間的な余裕がなく、反省を踏まえて今後の企画に反映させたいと思います。

元気さぎしま協議会の農水省予算を使つての活動であり、今後の島の活性化・交流人口の増加・定住促進に繋がるよう継続的に実施して参ります。さぎしまを愛するボランティアガイドの皆様お疲れ様でした。



発行
鷺浦コミュニティー
センター
電話/ FAX:
0848-87-5004
Eメール: sagiurac@
mail.mcat.ne.jp



俳句・短歌

- ・枯れすすきの先おれのすがたかな
- ・不景氣が我が家にもきて寝正月
- ・初春や島の魅力でおもてなし
- ・麿屋の土塀を越えて寒椿
- ・入舟の汽笛聴ゆる初電話
- ・招福の七社巡りや初詣
- ・小波立つ海面漂う鴨の群
- ・島民等各々絆強く有り

目には見えねど足垣間なく掻く
唯我一人孤独に耐える

あかんたれ
ぶんか
一草
牡丹

かんきつ収穫の時期を迎えた、昨年12月6、7日に、かんきつ収穫お手伝いツアーが行われ、島外から5人が参加しました。



かんきつ収穫は、参加者にとってほぼ初めての体験。2日間に渡り挑戦したのですが、収穫のスピードだけでなく、「ハサミの音からまったく違う」状態。手際の良さに圧倒されながら、お手伝いになったか不安なくらい。しかし、「60歳を超えてもパワフルに活動している島の皆さんは本当に素晴らしい方々

「ハサミの音からまったく違う」収穫お手伝い

ばかり、逆にパワーをもらいました」、「力仕事と高いところはお役に立てたのでは？来年も行きたい」と参加者の声。受け入れてくださった土森さんから「来年も来てほしい」との言葉をいただきました。ありがとうございます。



さぎしまのアルバムが完成

200以上の作品が集まり、インターネットと島内で投票を行った「島★彩発見！フォトコンテスト in さぎしま」。参加作品を集めたフォトブック「さぎしまのアルバム」がこのたび完成しました。島内外の各所に飾らせていただくとともに、各種イベント等の賞品もしくは景品で活用していく予定です。

実際にどこに飾ったかは、フォトコンテストのフェイスブックページ (<https://www.facebook.com/sagishima.photo>)にて随時発信しますので、そちらをご覧ください。



三原市もブースを持ち、市職員の有木浩さんと大和町地域おこし協力隊の唐井ゆかりさんが佐木島の移住案内や地域おこし協力隊の募集をPR。熱心に話に聞き入る来場者の姿が見られました。

日本最大級の移住・交流フェア

東京・有明で佐木島をPR

全国から200を超える自治体が参加し、日本最大級と言われる、JOIN移住・交流&地域おこしフェアが、1月18日に東京・有明の東京ビッグサイトで開催され、インターンやUターンで地域に暮らすことに関心を持つ人々が多数あつまりました(JOIN＝一般社団法人移住・交流推進機構、総務省主催)。

いかがでした？ クロスワードパズル

1	タ	2	テ	3	オ	4	タ	5	イ	6	シ	
7	コ	8	ン	9	ヤ	10	イ	11	シ	12	ジ	
13	ニ	14	ク	15	ヘ	16	ン	17	ミ			
18	タ	19	イ	20	ハ	21	イ					
22	カ	23	タ	24	カ	25	ナ	26	ハ			
27	ハ	28	ル	29	カ	30	ゴ	31	ル	32	フ	
33	シ			34	ト	35	ウ	36	ノ	37	ミ	
											38	ネ

答えニミンナノ

ご応募ありがとうございます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

宮本常一と佐木島



(1)土性骨のすわった人たちが生きていた

『忘れられた日本人』などの著作で知られる、民俗学者の宮本常一(みやもと・つねいち 1907-81年)は、日本全国をくまなく歩き、各地の民間伝承や人々の暮らしを克明に調査・記録し、「旅する巨人」とも言われます。

みずからも山口・周防大島に生まれ、民俗調査の中で離島に数多く足を運び、その知見に基づき、昭和28年(1953年)に成立した離島振興法の制定にも尽力しました。その活動と生き様は多くの人をひきつけ、未刊行の著述や講演録が今なお編集、出版されています。

生活、文化の理解に根ざした、宮本常一の島嶼開発や振興についての仕事と考えは、今で言う、島おこしやまちづくりのヒントになると思われまます。この稿では先ごろ出版された講演集などを参考に、宮本常一に学んでいきたいと思ひます。

ご存知の通り、宮本常一は、昭和25年12月に生涯で一度だけ、佐木島を訪れており、その記録は『私の日本地図6瀬戸内海口芸予の海』(2011年・未来社)等に残っています。

宮本常一は瀬戸田で漁業のことを調べ、古くからつづいている家のある佐木島に関心をもち、渡し船で向田野浦に渡ります。

「日照りがつづいて畑はカラカラにかわいており、女たちが池の水をタゴで畑へ運んでいた。わたしはその風景に胸を打たれた」。それが第一印象でした。

古文書を調べ、磨崖和霊石地蔵の碑文を写します。そして殺生禁断の由来に触れ、塩田とサツマイモ栽培を経て、はげ山と格闘し、努力している人々がいることを知るに至ります。

そして、この本のあとがきで、ただ一度おとすただけでも強く印象に残っている島のひとつとして、佐木島をあげ、こう記します。「そこには土性骨のすわったような人たちが、その風土の中に生きていた」。土性骨のすわったような人たちは、いったいどのような人たちなのでしょう。(つづく)